

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：24506

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652061

研究課題名(和文) 英文学は科学を理解するのか 現代イギリスロマン主義研究を考える

研究課題名(英文) Do English Studies Understand Natural Science? Considering the Modern Scholarship of English Romanticism

研究代表者

石倉 和佳 (Ishikura, Waka)

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号：10290644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：17世紀以来、英語による文学作品に表現された科学へのさまざまな関心は、20世紀になって成立した英文学研究において、十分に歴史的な脈を与えられて正当に理解されているとはいいがたい。本研究は英文学研究の制度化において文学テキストへの非歴史的アプローチが原型的規範である点を問題とし、そのため文学テキストの理解においても、今日まで発展してきた自然に関する科学的知識の体系を歴史化して捉えることが少ないこと、そして現代の英文学における自然科学の理解が、科学的知識から独立した、すなわち疎外されたものと考えられることを指摘したものである。

研究成果の概要(英文)：Scientific interest has been variously expressed in English literary works from the 17th century. However, it has not fully been contextualized and historicized for its proper understanding in the English studies established in the 20th century. This study focuses on this issue, pointing out that ahistorical approaches to literary texts are prototypical in the systematization of English studies, and that those texts, therefore, have been less likely to be historicized in view of the scientific system of natural knowledge that has been developed to date. Then, the understanding of literary texts in this modern age can be considered as allegedly independent or sadly alienated from the scientific knowledge in its proper state.

研究分野：イギリス文学

キーワード：ロマン主義 英文学研究 科学史 歴史主義

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、イギリス・ロマン主義文学と当時の科学者や科学的思想、科学研究の実際との関係を考察してきたが、明らかになったことの一つに、文学テキストに科学的事実に関する記述がある場合、科学史上の事実を掘り起し、当時の科学研究の実際に照らして理解することに必ずしもプライオリティが与えられておらず、文学的修辞や伝記的関心事の一つとしてのみ理解される傾向がある事実である。その結果、19世紀初頭のロマン主義の時代の科学の認識と現代とは全く異なっているにも関わらず、その差異に対する詳細な検討は文学研究の対象とされないという事態が起きている。同時に、科学研究の組織的制度が現代のように確立していない19世紀前半までは、科学的論文やエッセイも広く文学(literature)として取り扱うことが出来るポテンシャルがあるにもかかわらず、それらの文献のテキスト性が検討されることは非常に少ないことも事実である。これらを踏まえて、科学的な知識を如何に文学研究に取り込むことが正当であるかを検討することの必要性を認識するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、17世紀以降の科学的知識を歴史的認識に基づいて正当に取り入れることが、20世紀に確立した制度としての英文学研究においては困難であることについて、特に18世紀から19世紀前半の作家・作品を対象とした研究の中で検証することである。20世紀を通して、文学理論の開発などにより文学研究を科学的方法論による研究として追求する方向がみられたが、結果として人文科学領域内の学問的関心の細分化を加速させた。昨今優勢となっている新歴史主義批評では、学際的な研究方法の開拓が十分に行われない中で、体系的でない科学知識の取り込みが散逸的に行われている。本研究は、科学的研究を標榜したものが自然科学の体系的知識から疎外されていることを、英文学研究における克服すべき非歴史性として検証するものである。

### 3. 研究の方法

本研究の具体的な方法として、主に次の三つのアプローチから考察を行った。

- (1) イギリス・ロマン主義文学のテキストを対象として、科学的知識との関連が見られるものに

おいて、英文学研究ではどのように研究されてきたかを検証し、科学史上の理解と比較検討する。

- (2) 連携研究者(中根美知代)との協議を通して、18世紀から19世紀にかけての科学史上の重要なテーマとして熱学を中心に考察しうることが確認されたことから、ロマン主義の作家や当時活躍していた科学者たちがどのように熱学についての関心を示したかを検討する。
- (3) 20世紀英文学研究において、研究体制が制度化し、文学テキストに対する非歴史的なアプローチが所与のものとなった結果、18世紀の博物学的関心やその他の科学的関心が文学研究の中で歴史的な輪郭とともに理解されることが少ないという状況が定着していることについて検討する。

### 4. 研究成果

研究成果は、主に論文発表と口頭発表(国際学会および国内学会)で公表した。以下はそれらの具体的内容である。

(1)のテーマについては、S.T.コールリッジの『文学的自叙伝』(*Biographia Literaria*)やジョン・キーツの『イザベラ』(*Isabella*)などを対象として検討を行った。コールリッジの『文学的自叙伝』は、哲学的な傾向を帯びた科学的知識への関心が随所に見られるが、科学史上の文脈からそれらの関心が理解されることが少ないことが確認できた。また、ロマン主義研究の基本書ともなった M. H. エイブラムスの『鏡とランプ』(*The Mirror and the Lamp*)において、コールリッジの化学に関する関心を科学史的な文脈を与えずに断片的にしか理解していないこと、それがテキストの歴史性を看過する姿勢から来ていることを指摘した。また、キーツの詩『イザベラ』は、植物の描写が多く当時の園芸ブームを彷彿とさせるものであるが、植物学の発展やアジアにおける新種への関心が背景にあることも指摘できる。この点はこれまでほとんど論じられておらず、科学的文脈を歴史的に掘り起こすことが十分でないために、文学作品の理解に限界を与えている結果になっていることの一例であると考えられる。これらの成果については、本研究期間中には口頭発表のみ行ったが、今後何らかの形で論文にまとめる予定である。

- (2)ロマン主義期は、科学雑誌が多く発刊され、

王立研究所(Royal Institution)が設立されるなど、科学研究が進展した時期である。この時期において、現代の科学にもつながる関心が表れた分野として、熱学領域を取り上げた。そして、18世紀末から19世紀にかけて重要な科学者として記憶されている、ラムフォード卿 (Benjamin Thompson, Count Rumford)、ハンフリー・デイビー(Sir Humphry Davy)、およびジョン・ドルトン(John Dalton)における熱学に関連する言説を考察した。英文学研究への関心を軸に、科学史上重要なテーマを中心に考察することはこれまで行われておらず、この点においても科学史上の知見が文学研究では重要視されていないことが分かる。

ラムフォード卿は王立研究所の設立運動を起こし、自らも科学研究を行い、熱運動説を唱えたことで科学史に名が残っているが、彼の科学者としての活動は軍人としての活動と平行して行われた。彼が王立協会の機関誌、*Philosophical Transactions*に寄稿したものの中には、文学的な記述が見られるものもある。ラムフォードによって王立研究所の助手となったデイビーは、よく知られているようにロマン派の詩人たちの友人であった。総合的に見てこれらの人々にとって共通していたのは、自然の現象に意味と言葉を与える営みであり、科学的知識は科学研究の枠内に収まらず、文学的な営みと相互に影響している

近代的な原子論の提唱者として有名なジョン・ドルトンは熱学の分野では熱運動説を採らず、その意味では評価をされていないが、観測機器も科学理論も十分に発達していなかった当時の科学研究はそのほとんどが作業仮説によって成り立っていたことも確かである。ドルトンの原子論は当時の人々にも広く知られたものとなり、急進派の活動家によっても人間社会のアナロジーとして利用されていることが分かった。すなわちすべての「原子」―「個人」は一旦この世から消滅してしまえばすべて原子に戻るのであり、その意味で靈魂も存在しない、という論理である。このように、科学的知識がどのように理解されていたかについては、時代的な文脈を踏まえた理解が必要であることを検討した。

(3)これは(1)のテーマとも関連するものであるが、特に英文学研究が大学のカリキュラムに位置づけられ、その中で研究体制が作られている過程で、18世紀から19世紀にかけての博物学的関心が見られる読み物や科学啓蒙書が、英文学研究の対象とはされない傾向があることについて検

討したものである。

この他、庭園史や植物学に関する考察も行ったが、それらのテーマにおいても科学的知識を歴史的に理解することが重要であることは同様に確認できた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計4件)

- (1) 石倉和佳 「植物表象とイギリス文学―文学研究における歴史主義をめぐって」『ガーデン研究会ジャーナル1 2015』 査読無 2015年3月 WookWay, 1-24.  
<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BB18614943>
- (2) 石倉和佳, 中根美知代 「19世紀初頭の熱学からみる現代イギリス・ロマン主義研究―史的方法論に向けて」『兵庫県立大学環境人間学部報告』 査読無 16(2014): 151-164.  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009781961>
- (3) 石倉和佳 「ハンフリー・レプトンの庭空間―ロマン主義期の文化表象として」『兵庫県立大学環境人間学部報告』 査読無 16(2014):139-149.  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009781960>
- (4) Waka Ishikura “The Romantic Vision of the Unity of Science and Poetry and the Institutionalization of Science in England,” *La Poesie scientifique, de la gloire du deaclin*, 1 査読有 (2013): 133-161.  
[http://www.epistemocritique.org/IMG/pdf/6\\_ISHIKURA.pdf](http://www.epistemocritique.org/IMG/pdf/6_ISHIKURA.pdf)

(学会発表)(計4件)

- (1) Waka Ishikura, “Coleridge’s *Biographia Literaria* and Its Historical Readers,” International Conference on Romanticism, ミネアポリス(アメリカ), 2014年9月25日  
<http://www.stthomas.edu/mcl/icr/program/>
- (2) 石倉和佳 「コールリッジは科学したのか?―The Mirror and the Lamp と文学研究パラダイム」イギリス・ロマン派学会全国大会 安田女子大学(広島県広島市) 2013

年 10 月 20 日

- (3) Waka Ishikura, “Desire for Romantic Flowers: The Consumption of Oriental Flower Images in Domestic Discourse,” British Association for Romantic Studies, 2013 International Conference: Romantic Imports and Exports. サウザンプトン(イギリス)2013 年 7 月 25 日

<http://www.southampton.ac.uk/bars/programme/index.page?>

- (4) 石倉和佳 「文系？理系？「科学する」とはなにか～現代の大学教育を考える」 兵庫県立大学シンポジウム(ポスター) イーグレ姫路(兵庫県姫路市)2012 年 9 月 24 日

{その他}

ホームページ等

石倉和佳HP

<http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/ishikura/>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

石倉 和佳 (ISHIKURA, Waka)

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号: 10290644

### (2)連携研究者

中根 美知代 (NAKANE, Michiyo)

日本大学・理工学部・研究員

研究者番号: 30212088